

市立

1993年（平成5年）10月1日発行

# 市川自然博物館

10・11月号 （通巻第28号） だより

やさしい  
分類学 4 種子植物



▲この花は何科でしょう。

# やさしい分類学 4 種子植物

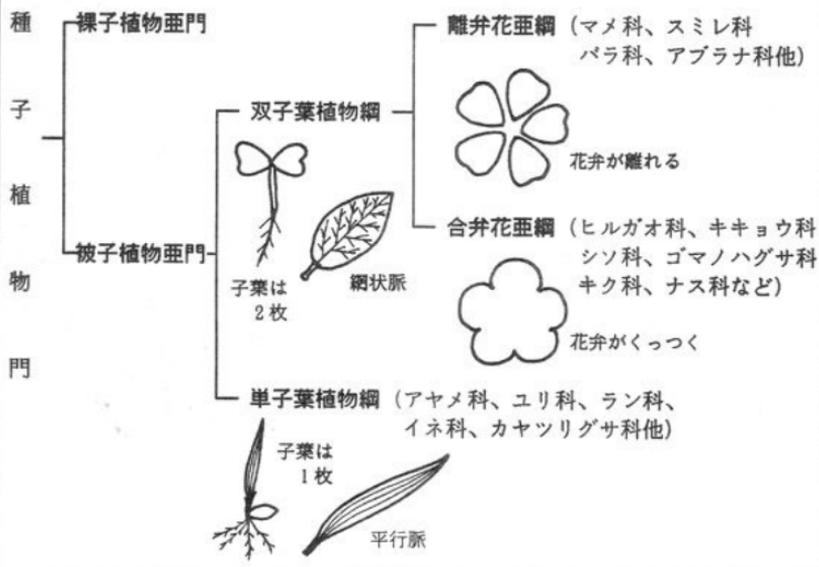
家のまわりや毎日通る道ばた、植物は私たちの身のまわりにいっぱいあります。でも、あまりひとつひとつを区別しては見えないものです。そこで、花の形を中心にして、簡単なグループ分けのポイントを紹介します。

## ●花の形に注目しよう

種子植物は、花が咲いて種子をつくるグループで、世界に20万種余りもあります。それらは基本的には根・茎・葉・花を持つ、よく似たつくりをしているので、違いを見つけてグループに分けてゆくの少々厄介です。そこでまず、花のかた

ちに注目してみましょう。花は、いろいろな形態や構造をしています。近縁種のあいだでは共通の特徴を持ちます。特にいくつかの科では、花の形で何科なのか見当をつけることができるので、調べる範囲をかなりしぼることができます。

種子植物の分類 (図鑑によって多少違いますが、一般的でわかりやすい分類を紹介しました。例示してある科名は、今回取り上げたものです。)



# 団子より花の形を見てみよう

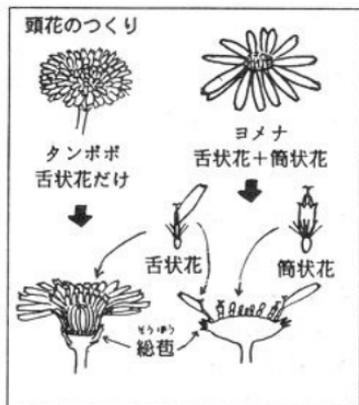
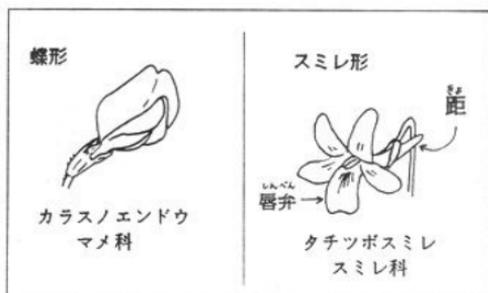
## ●独特な形の花をもつ科

まず独特な形の花を紹介します。蝶形の花を見つけたら、マメ科かどうか調べてみましょう。鞘状の実があれば間違いありません。スミレ形の花は、左右対称な形をしていて、発達した唇弁や花弁の一部が裏側に細く突出した距をもつのが特徴です。

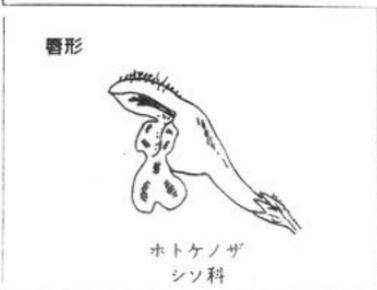
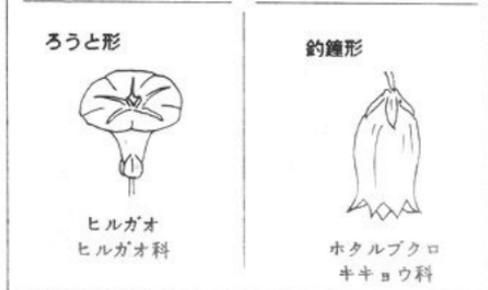
花弁がくっついている合弁花の様子がよくわかるのは、ろうと形をしたヒルガオ科です。釣鐘形の花は、キキョウ科やリンドウ科に多く、浅い形は盃型と呼ばれます。唇形の花は、シソ科に多いですが、ゴマノハグサ科などにもあります。

## ●頭花をもつキク科

花序軸が変形して偏平になった上に、小さな花がたくさん並んで一つの花を形づくる頭花は、キク科に多い形です。マメ科のシロツメクサも頭花に見えますが、キク科はがくのように見える総苞によって、花の集まりが包まれています。キク科の小さな花には舌状花と筒状花の2種類があって、両方持つものやどちらか片方だけを持つものがあります。



表紙の写真はウラボク（キク科）の花



### ●典型的な形の花

放射相称型のいわゆる‘花らしい’形の花の場合には、花卉（時に花卉状のがく）の枚数に注目します。5枚ならばバラ科やキンポウゲ科を、4枚ならばアブラナ科に見当をつけます。特にアブラナ科の花弁が十字に開いた様子は特徴的で、かつては「十字花科」としてわけられていたほどです。

花弁が5枚に見えても、根元でくっついている（合弁花類）ナス科などの花もあります。

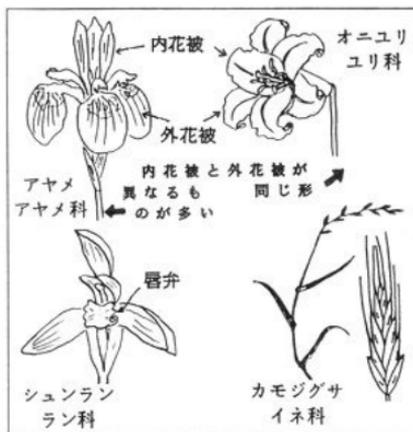
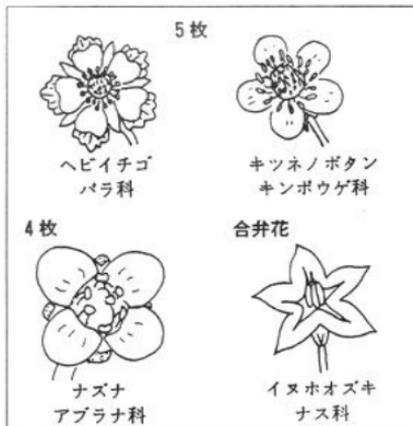
### ●葉脈が平行な単子葉植物

単子葉植物は葉脈が平行なことでも簡単に見分けられるので、はじめにチェックすれば、科の数もぐっとしぼられてきます。これらは、ふつう3の倍数の花被片（おもに双子葉植物では花卉とがくに区別されるもの）から成っていて、アヤメ科やユリ科では、内側3枚（内花被）と外側3枚（外花被）の形に着目します。特に内側の1枚が特殊化している（唇弁）のはラン科で、美しい花が多いです。

また花の構造がきわめて特殊で、穎や鱗片に包まれた花が穂状になっているのは、イネ科やカヤツリグサ科です。

### ●図鑑を見る前に・・・

ここにあげたのは、図鑑を引くためのごくごく初期の段階をご紹介したにすぎません。科の見当がついたら、図鑑をめくって、さらに検討しなければなりません。書店にいくと実に様々な植物図鑑が置いてありますが、写真やカラー図版のきれいなものは、野外で実物と照らし合わせたり、家でながめるには便利なので、



入門編としておすすめです。しかし、分類に必要な詳細な構造についてわかりにくいのが欠点です。詳しい形態まで線画で描かれている単色の図版を使用した図鑑（『学生版 牧野日本植物図鑑』牧野富太郎著 北隆館など）は実物をイメージしづらいのが欠点ですが、それらをあわせて持つのもよいでしょう。



# 街かど自然探訪

おじゃまします!

## 北国分町・キツネノカミソリ群落

国の史跡として保護されている堀之内貝塚、守られているのは土器や貝殻ばかりではありません。法律で土地の改変が厳しく規制されているため、昔からあった植物がいまだに残っています。

大木のイヌザクラや、イヌノフグリの群落、アワコガネギクなどは、ここでしか見ることができません。また、夏には林一面にキツネノカミソリが咲き誇ります。地面からすっと伸びた花茎に淡いオレンジ色の花が付き、その群落は、市内でも最大級の規模と思われるます。



## 行徳野鳥観察舎

梅雨から秋へ

ふと気がつく、もうどちらを向いてもススキの穂が出ていた。夏らしい暑さを味わったのはほんの数日。セミがひとしきり鳴いたと思ったら、半月もしないうちにアオマツムシと交代してしまった。アオマツムシの声がにぎやかすぎて、カンタンもクサヒバリも影が薄い。エンマコオロギはこれから羽化するのか、まだあまり鳴いていないようだ。

ひとしずくでも雨がほしいという干ばつの去年と比べて、水が豊富な今年は木や草の緑が濃いような気がする。アメリカシロヒトリのテントが例になく目立つのは、季候と関連あるのだろうか。去年

## だより



文と絵・蓮尾純子

はほとんど見られなかったナンバンギゼルがススキの葉影で咲きはじめ、冬鳥のコガモが渡ってきた。ツバメやコアジサシとのお別れももうすぐだ。

(行徳野鳥観察舎 0473-97-9046)

# いちかわの 野生生物

# テングタケ

(*Amanita pantherina*)

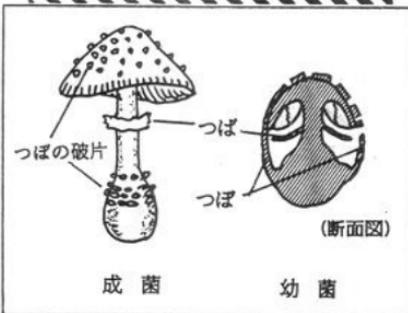
テングタケは、市川市内の雑木林や松林に生えるキノコです。

テングタケの仲間、傘、ひだ、柄を持つ、いわゆる“キノコ形”のキノコの中で最も形態が複雑なグループで、「つぼ」と「つば」があるのが特徴です。

「つぼ」は幼菌の時に全体を包んでいた膜です。キノコが生長するときに「つぼ」の膜が破れ、袋状になって柄の根もとを包みます。「つば」は、傘の裏側の胞子をつけるひだ全体を、幼菌の時に包んでいた膜のなごりです。

テングタケでは、「つぼ」の膜がもろいため袋状にはならず、細かくちぎれて、傘の上にはばくに白い破片がちらばり、柄の根もとにも「つぼ」の破片が指輪状に残っています。また、柄の中ほどには、「つぼ」の膜が輪状になってついています。

テングタケは有毒で、その毒成分が蠅とりに利用されていました。



## むかしの市川 ～ その23 ～

### ガチャガチャガチャ ガチャくつ虫

「きりきりきりきり きりぎりす  
ガチャガチャガチャガチャ くつ虫  
あとから馬おい おいついて  
チョンチョン チョンチョン  
スイッチョン

秋の夜長を鳴き通す

ああ おもしろい 虫のこえ」

これは、私が小学校の時に習った文部省唱歌「虫のこえ」の一節です。子どもの頃は、身のまわりで、いろいろな虫の音が聞えてきました。キリギリスやウマオイは、草むらで普通に聞くことができました。また、秋の祭礼の縁日の夜店に



は、必ず、虫屋が出て、スズムシや、マツムシが、きれいな虫かごとともに売られていました。クツワムシは、ガチャガチャと、かまびすく鳴くので、子どもたちはガチャガチャとよんでいました。

私の家の前の街路樹のアオギリに、ガチャガチャがすみつき、夜になると、ガチャガチャと一勢に鳴きだすのです。一晚中、絶え間なく鳴くので、まことに騒々しかったことを思い出します。

今ではガチャガチャの声が町なかで聞くことはなくなりました。

(博物館指導員 大野景徳 記)

## ◆大町自然観察園より

- ・観察園のトンボの初認記録  
ナツアカネ・モトイトトンボ (7/4)
- キイトトンボ (7/23)
- セスジイトトンボ (7/27)
- ウスバキトンボ (7/28)
- チョウトンボ (7/29)
- ウチワヤンマ (8/1)
- ヤブヤンマ (8/13)
- マユクテアカネ・ハグロトンボ (8/18)
- オオモノサシトンボ (8/31)

阿部則雄さん (船橋市在住)

オニヤンマ (7/2)

須藤 治 (自然博物館)

- ・サンコウチョウのさえずりを聞きました (6/30)
- ・ひさしぶりに、フクロウが飛来しました (7/2)
- ・エゾビタキが飛来しました (9/10)  
以上 須藤 治
- ・サンバ5羽が飛来しました (8/15)  
阿部則雄さん
- ・クマゼミが鳴いていました (8/28)  
金子謙一 (自然博物館)

## ◆大野町2丁目より

- ・ニイニゼミの声を聞きました (7/30)
- ・アブラゼミを見ました (7/31)
- ・ヒゲラシの声を聞きました (8/2)

新井正男さん (大野町在住)

※ニイニゼミ、ヒゲラシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクホウシ  
の音が、同時に聞かれた夏でした。

## ◆柏井雑木林より

- ・メジロの巣立ち雛を見ました (6/25)

金子謙一

## ◆堀之内貝塚公園より

- ・キツネノカミソリが満開でした (8/9)

金子謙一

## ◆千葉商科大学付近より

- ・フクロウを目撃しました (9/14)

村上暢一さん (真間在住)

## ◆菅野より

- ・アサギマダラを目撃しました (7/16)
- ・ジムグリを見ました (8/15)
- ・ノコギリカミキリがいました (8/25)

山崎剛介さん (菅野在住)

## ◆真間川境橋より

- ・カワセミが来ていました (8/26)

石井信義さん (菅野在住)

## ◆葛飾八幡宮より

- ・クマゼミが鳴いていました (8/21)

須藤 治

## ◆二俣より

- ・クマゼミを採りました (8/23)

葛坂啓介さん (二俣在住)

※市内でのクマゼミの生息が、じわ  
じわと広がっている感じです。

## ◆江戸川放水路より

- ・トラフグの若魚が採れました (8/14)

堀 実さん (葛飾区在住)

- ・行徳橋上流で クワアシ、キガツリ、ゴキウ  
などが咲いていました。(9/5)

金子謙一



☆☆☆☆ 自然博物館の行事案内 ☆☆☆☆  
 ＊自然観察会 定員 各回 先着20名

| 内容     | 日にち       | 時間               | 場所    | 受付開始日  |
|--------|-----------|------------------|-------|--------|
| 雑木林の植物 | 10月17日(日) | 午前9:30<br>～11:30 | 柏井雑木林 | 10/1～  |
| クロマツ観察 | 11月21日(日) |                  | 菅野周辺  | 11/1～  |
| 台地の観察  | 12月5日(日)  |                  | 国府台周辺 | 11/15～ |

＊自然とあそぼう 定員 小学生と保護者 先着20組

| 内容       | 日にち       | 時間                | 場所    | 受付開始日  |
|----------|-----------|-------------------|-------|--------|
| 絵地図をつくろう | 11月13日(土) | 午前10:00<br>～12:00 | 自然博物館 | 10/15～ |

申込み方法

往復はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご記入のうえ、  
 受付開始日以降に、自然博物館までお送りください。

＊自然博物館セミナー 1993 (考古・歴史・自然博物館共催)

博物館の学芸員が、市川の考古・歴史・自然の話題についてわかりやすく解説します。  
 ＊自然博物館担当(考古・歴史博物館の内容等については各館へお問い合わせ下さい。)

●11月20日(土)

解説書『江戸川放水路—自然環境と生物を使って』学芸員 金子謙一

●12月4日(土)

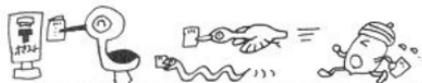
『市川市鳥類目録』の活用法

学芸員 須藤 治

市川公民館にて 午後6時～8時

申込みは電話で、

考古博物館(0473-73-2202)まで。



市川市川自然博物館だより

第5巻 5号 (通巻第28号)

発行日/平成5年10月1日(偶数月発行)

編集・発行/市川市川自然博物館

〒272 千葉県市川市大町 284番地

☎ 0473(39)0477